

# 物価高騰から暮らし守り、介護の充実、市民の声に応える市政を求め一般質問

日本共産党町田市議団



一人暮らしの高齢者に  
救急通報システムを  
市議会議員  
**細野りゅう子**

細野りゅう子市議は、物価高騰対策に有効な消費税減税を国に求めるように要望。政府が予算化したお米券等の物価高騰対策費について、現金なども含め早急に市民に支給するよう求めました。「国の情報を精査、速やかに支給できるようにしたい」と政策経営部長が答弁。次に、「何か緊急事態があったときに、助けを求めるための首から下げるペンダントを利用できるようにしてほしい」という高齢者の声を届けました。いきいき生活部長が、ペンダント型救急通報システムを心臓などの慢性疾患に限定していて、拡充はしないとの答弁でした。他市でも、希望する高齢者に拡充している状況も示し、市として調査をして実施するように求めました。

また、ふるさと納税を活用して、より良い学びの環境を提供するために、個別の学校に個人の寄付を求める手法について質問。学校に寄付者名を掲示するなど、公平性に疑問と指摘しました。



教育部長が「方法を、今後検討する」と答弁しました。



生活圏や町の歴史を壊す統廃合計画はやめよ  
市議会議員  
**佐々木とも子**

佐々木とも子市議は、町田市が進める統廃合計画について、2年前に全会一致で採択された小山田地域の請願が、その後どのように見直し、検討されたのかと質問。学校教育部長は、地域関係者と丁寧に話し合いを行ない、一部修正で統合時期を2035年としたと答弁。しかし保護者が一番心配する登下校の安全が担保できない長距離通学や、生活圏・町の歴史を分断する統廃合はやめるべきと求めました。町田市役所の非正規公務員（会計年度任用職員）の雇用実態を質問。総務部長は職員全体の約4割（1,809人）が更新上限回数4回までの会計年度任用職員だが、今年から正規職員として登用する採用試験を実施していると答弁。介護保険料の支払い困難な方への対応については、納税担当部長が生活状況を丁寧に聞き取ったうえで分割納付などの柔軟な対応をしている。



いきいき生活部長は、現在滞納して給付制限を受けている人は23人だが、うち14人はサービス利用していると答えました。



市は「野津田公園上の原原っぱをなくさないで」の声に応えよ  
市議会議員  
**田中 美穂**

田中美穂市議は、野津田公園の上の原原っぱにアスファルト舗装の大型車両回転広場を整備する工事について質問。原っぱの中の準絶滅危惧種の植物の群生地が、工事計画地に入っていることが確認されたのは10月の工事説明会の直前だったと明らかに。工事は始ましたが、市民の合意や納得は得られていない、「貴重な草地をなくさないで」という声に市は応えよ、と求めました。

鶴川駅前の公衆電話がなくなつて困っている」という声を紹介し、設置をNTTに求めるよう質問。他の駅の状況を示し、駅から500メートルも離れているところはないと紹介すると、「NTTに要望があることは伝える」と道路部長が答弁しました。

品川で10メートルにわたって道路が隆起した事故について、リニア中央新幹線工事との因果関係が調査されている件について質問（12月22日に、JR東海が因果関係認める）。町田市内の小野路工区で、シールドマシンの位置が地表からもわかるよう、工事場所の位置を提示するよう求めました。

